

伝統文化の楽しさを伝えて
次の担い手を育てます

平山郷土文化保存会

なかはた いちぞう
会長 中島 一三 さん(58)

小正月に入る1月14日から20日までの間、前年に不幸があった家を除く全ての家を回り、蚕舞を踊ります。この行事は、養蚕が盛んだった昭和30年代をピークに一時廃れましたが、35年ほど前に、平山地区の青年団が復活させました。その時のメンバーが、現在の平山郷土文化保存会を支えています。他の伝統文化とともに、蚕舞を披露する機会を作って楽しさを伝え、次の担い手を育てることが、私たちの役目だと思っています。



↑枝に餅をさし、繭や稲穂に見立てた「ゴー」。

蚕舞

みなみたちょう
南種子町 / 平山地区

女装した蚕の化身が舞う 縁起物の伝統行事

「これから申すよ、門から申すよ——」

一月中旬の夜、民家の玄関先で打ち鳴らす太鼓と鉦に合わせ、蚕舞の一行による歌が始まります。同時に「嫁ジヨウ」と呼ばれる晴れ着姿の青年が座敷に上がり、その後「ゲーマー(芸回)」が続きます。優雅に手踊りを舞う嫁ジヨウのそばで、ゲーマーが酒を飲みながら滑稽な仕草で踊り、家人がひと笑いしたところで、一行は次の家へと向かいます。

青年たちが家々を巡って舞を奉納する「蚕舞」は、種子島の南種子町平山地区に伝わる小正月の伝統行事。400年ほど前、島民に養蚕を奨励する目的で種子島公が行われたのが起源とされ、元々は蚕繭の豊作を祝うものでした。今では米の豊作、家内繁栄、無病息災を祈願する行事として受け継がれています。

「嫁ジヨウは蚕の化身で、繭を模した白頭巾をかぶり、『ゴー』という繭に似せた餅飾りがかかります。歌詞には蚕の生涯が綴られ、蚕舞の起源を物語ります。ゲーマーは嫁ジヨウを

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事・祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から南種子町平山地区に伝わる「蚕舞」をご紹介します。

引き立てる道化役です」と説明する中島一三さんは、青年時代から平山郷土文化保存会に所属するゲーマーの踊り手。現在は会長として地域文化の伝承に力を注いでいます。「最初は嫌々始めましたが、ゲーマーはお酒を飲めることもあって、毎年踊るのが楽しみになりました。大変な反面、やってよかったという喜びがありますから、それを伝えていきたいですね」

県の無形民俗文化財に指定されているのは、平山地区浜田集落の蚕舞です。平山地区には4つの集落があり、舞や形式はそれぞれ異なりますが、どれも若者たちの楽しみみとして守り継がれる、小正月の縁起物です。

南種子町

南種子町は総人口6,062人(平成25年10月末現在)のまちで、種子島の南端に位置しています。種子島では弥生時代後期から古墳時代にかけて、海岸の砂丘に墓場がつくられました。写真下部、広田海岸の横に広がる森が広田遺跡です。埋葬遺構から発掘された人骨は多彩な貝の装身具を身に付けており、このような文化は日本列島でこれまで例がありません。平成20年に国の史跡指定を受けました。



南種子町